第3種郵便物認可　2012.10.17(水) 夕刊　北海道新聞（夕刊）　2012年（平

寮歌誕生100年を記念

「都ぞ弥生」ドラマに

北大OBら企画 HBC来春放送

北大恵迪（けいてき）寮歌「都ぞ弥生」の誕生100年を記念して、北大OBが中心となってドキュメンタリードラマを企画した。現在も学生たちに親しまれている歌の歴史をたどる内容で、OBが脚本を手がけ、現役学生が出演する「オール北大」の取り組み。来春の放送に向けて、HBCが制作を進めている。

「都ぞ弥生」は1912年（明治45年）、当時の寮生だった故横山芳介さんが作詞、故赤木顕次さんが作曲した。旧制第一高、旧制第三高の寮歌と並び、日本三大寮歌に数えられる。

ドラマ「清き国ぞとあこがれぬ」（仮題）の脚本は、元副学長で北大名誉教授の藤田正一さん（68）と、前HBC社長で現在は札幌ドーム社長の長沼修さん（69）のOB2人が手がけた。留年するほど寮歌の制作に夢中になった姿をドラマの手法で再現し、北大総合博物館に保管されている映像資料を盛り込んで、クラーク博士の精神と「都ぞ弥生」の関係を明らかにする。

物語の軸となる横山さん役は第100代、101代の応援団長を務めた農学部3年の小倉瑛矢さん（21）、赤木さん役は農学部2年の中西博宣さん（23）が演じる。ドラマの演出は北大映画研究会OBの映画監督早川渉さん（48）、ナレーションは女優の竹下景子さん（59）が担う。

自身も恵迪寮で過ごし、応援団長も経験した藤田さんは「『ボーイズ・ビー・アンビシャス』と呼びかけたクラーク博士の教えは、私利私欲を捨てて人々のために奉仕することの大切さを説いている。ドラマは、その言葉と『都ぞ弥生』とのつながりを伝えながら、現代に生きる私たちが培うべき野心とは何かを考えるきっかけになれば」と話している。

クラーク像の前で「『都ぞ弥生』に込められたメッセージを伝えたい」と意気込みを語る藤田さん（右端）、小倉さん（右から2人目）ら北大関係者